

パブリックエディターPEから

今春「読者と朝日新聞をつなぐ」PEという制度が設けられた。5月4日のレポートに書いたが、沖縄辺野古「移設」などに関するPE高島肇久さんの発言に疑問を感じた。「声」に投書したが、残念ながら掲載されず、私の「声」は届かなかった。まずは届かなかった「声」を紹介しよう。

パブリックエディターへの「意見」

本紙4月27日付パブリックエディターPEからについて意見を述べたい。昨年からの本紙改革に注目してきたので、じっくりと読んだ。読者と朝日新聞をつなぐとのことで期待していたが、最初から裏切られた感じだ。

高島肇久さんの報告は納得できない。4月6日の本紙1面見出しへのクレームである。沖縄辺野古についての菅官房長官と翁長知事との会談に関する記事だ。全国紙の朝日新聞には沖縄の怒りという常套句を書き連ねるのではなく、などと述べている。新聞の二極化が言われる中、政府に遠慮せず沖縄の意見を吸い上げることが求められているのではないか。9日後の安倍首相と翁長知事との会談では、紙面は様変わりとなった。高島さん同様、どうして変化したのか聞いてみたいものだ。早速PEの指摘が紙面作りに生かされたのだろうか。

高島肇久さんが再び7月25日に「沖縄報道 広く深い視点で」を書いている。先のコラムに対して、朝日新聞の「コア読者」から多数の批判の声が寄せられたという。私も「コア読者」の一人であろうか。

今回のコラムを読んでも、普天間基地の危険性は理解できても、それが辺野古の新基地建設に直結するのかが説明されていない。「沖縄問題は複雑で、多角的な取材、報道は不可欠です」という指摘は当然だが、

普天間と辺野古をいったん切り離して、沖縄問題を見るのが求められているのでは。民意を大切に、「権力を監視する」新聞の役割をPEに理解してもらいたい。

(2015年8月2日)

